

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000422		
法人名	医療法人 山仁会 山口整形外科		
事業所名	グループホーム メゾン・なでしこ		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋3225番地		
自己評価作成日	平成30年7月1日	評価結果市町村受理日	平成30年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4572000422-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制が整っており急変時は隣接している介護老人保健施設の看護師の対応も可能である。又、併設の医師が24時間に対応でき医療面が充実している。法人全体で、感染・接遇・高齢者虐待防止・認知症ケア・プライバシーの保護などの研修を外部講師や自助努力で毎月行っている。又外部研修会参加者の研修報告会を行うなどして常に研鑽を重ねている。季節ごとの行事や、クラブ活動を行い一人ひとりが日々の生活に楽しみを持てるよう努力している。地域ボランティアの訪問や地域の有償ボランティアの方々にシーツ交換に来ていただいたり地元の就労支援施設より掃除に来ていただいている。又、地域のオレンジカフェにも参加し地域の交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営しているホームで、広い敷地内には系列の通所介護施設や介護老人保健施設等があり、職員や利用者は日常的に交流を行っている。母体の病院からは定期的に往診があり急変時の対応についても連携ができています。運営者をはじめ職員全員が地域との連携強化に努めており、地元婦人部による週1回の有償ボランティアなど、「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念のもと職員が介護に専念できる体制も整っている。また、年1回開く家族会の前にはホームに対するアンケート調査を実施し、結果は職員全員で共有し日々の介護につながる努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の運営会議で話し合い「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念のもとその人らしい暮らしができるように理念の共有を行っている。	余裕をもって利用者に寄り添い、1日に1回は全員に笑ってもらえるよう心がけ、地域に根付いたみんなと一緒に暮らしを支えるよう全職員で実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がお花を届けてくれる。又、季節の行事に参加して頂き入居者の方々と交流を図って頂いている。地域のオレンジカフェに参加している。	ホームの行事に地域住民を招待したり、小学生との交流や、高校生の体験学習を受け入れることで地域の人たちとのつながりを持つよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で町の委託事業や、地域の小・中・高等学校の慰問の受け入れや職場実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を2カ月に1回開催。入居者様の状況や、災害対策・行事・研修報告等を行っている。参加者の意見を、ホームの運営会議で報告しサービス向上につなげている。	これまで行っていた夜間想定防災訓練を実際に夜間に行ってはどうかとの意見が寄せられ、今年11月に夜間に訓練を行う予定である。今年度からホーム単独で運営推進会議を開くようになり、参加者が少なくなっている。	運営推進会議をさらに充実させて、地域の理解や支援を受けやすくするために、地元の消防団や警察官、民生委員など多種多様なメンバーの参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に町担当者に参加して頂いている。又、検討事例等を相談・助言を頂いている。	月に1回は役場に出向き、役場主催の会に積極的に参加している。運営推進会議に町の担当者が出席し、必要な指導や助言を受けている。その結果今年度からホーム単独で運営推進会議を行う事になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で研修会を行っている。毎月の運営会議で報告・検討を行って、個別の対策を行い拘束廃止の努力を行っている。マニュアル作成を行い職員の周知徹底を行っている。	職員は勉強会などで身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。外出傾向のある利用者にはその意図を把握して一緒に散歩に行くなどの対応をし、行動を制限しないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、法令遵守・接遇・高齢者虐待予防の研修を行っている。入居者と家族等の生活の中での虐待の有無の確認を行い、危険因子のある場合は面会時に立ち会う等防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用事例はない。研修の機会があれば参加し将来の必要時に備えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分説明を行い疑問点に答え、納得して頂いてから署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催。それに伴いアンケートを実施。アンケート結果を家族会で報告し、ケアの向上に努めている。地域運営推進会議に家族代表に参加して頂き意見交換を行っている。	運営推進会議に家族の代表が参加して意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族会の前にホームに対するアンケート調査を実施するなど意見や要望を引き出す工夫をして、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議に可能な限り経営者も参加し、現状報告・意見交換を行っている。又、法人全体の施設運営会議には管理者が参加し、全体会議には全職員が参加し情報交換や・要望を伝える場となっている。	毎月開催される会議では職員からの要望で浴槽を特殊なリフト浴にしたり、行事も職員の意見が十分反映されたものになるなど、日頃から誰でも意見や提案が言え気持ちよく働ける職場の雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有休は取りやすい環境になっている。また、リフレッシュ休暇も法人で取り入れるよう検討中である。個々で、勤務年数や資格・経験に見合った評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプターを取り入れ、新人職員の指導・教育を行っている。法人内での様々な研修会に参加している。又、1年に1度法人全体の研究発表会があり職員で日々の業務の研究や困難事例・成功事例を発表し合いケアの向上に活かしている。資格取得希望者に休暇の付与・金銭の貸与で支援する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に参加し、他事業所との交流の場としている。交流会などにも積極的に参加し情報交換を行っている。研修会で得た情報はホームに持ち帰り報告し運営に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、訪問し本人と面談し状態気持ちの把握に努めている。また、本人・家族にも事前に来所して頂き、法人のDrに診察して頂き現状の健康状態を確認、ホーム内も見学し実際の雰囲気を感じて頂いている。その中で些細な不安や要望にも耳を傾け答えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族やキーパーソンのお話をよく聞き、現在の気持ちを汲み取り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、かかりつけ医の情報や本人・家族・ケアマネジャーからの要望・情報を踏まえサービスを検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な作業を行って頂くことで自分の居場所づくりを行っている。作業中や終了後には、感謝の意を伝え共に過ごす立場の関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を報告し把握して頂いている。職員だけのケアにはせず、家族にもケアの一端を依頼し協力して支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会の受け入れ。ドライブや、散歩を行い馴染みの場所や思い出の地を巡って思い出話を行っている。家族にも協力頂いている。	家族の協力で馴染みの場所へのドライブや墓参りをしたり、職員が家族に声をかけ一緒に出掛けるなど支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合いにくい人間関係に苦慮する場合もあるが職員が間に入り孤立しないように努めている。入居者それぞれの個性を理解し、助け合い支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先へ面会に行ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。本人の状況・ケア等についても書面や電話連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活リズムを可能な限り活かしている。生活の中での希望や意向を取り入れている。家族の協力も得ている。	家族からの情報や普段の話の中でこれまでの習慣や生活歴を把握するとともに、利用者一人ひとりの様子を申し送りノートに記録し、全職員で共有しするよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活が継続できる様に本人・家族から情報を得ている。新たな生活の場で安らかで安心できる時間を提供していきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活習慣や生活歴を把握し個々の状態や残存機能をいかした支援に努めている。申し送りノートに一人一人の様子を毎日記録し全職員で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と本人・家族、担当職員が中心に話し合い要望や意見を取り入れ作成している。	担当職員や関係者の意見や気づきを反映した介護計画を作成し、定期的にモニタリングを行い、状況に応じて必要かつ適切な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護計画に沿ったケアチェックシートの記録を行い、毎月の会議で日々の変化の状態を考慮し計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて法人内のクラブ活動に参加している。家族の状況に応じて病院の付き添いを行っている(付き添い費あり)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内で地元の小・中学生の訪問、高校生の実習を受け入れている。毎月1回、町内のオレンジカフェに参加したり、外食・買い物へ出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、必要時には家族付き添いの受診を依頼している。又、身体的に遠方への受診が困難になってきた方へは家族・Drと相談し法人内の病院へ変更の相談・援助を行っている。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。母体医院から医師の往診も定期的であり、急変時に対応できるよう連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が医療管理・内服管理を行う。内服の管理は家族・介護職と連携し安全に行っている。朝の申し送りに参加している。申し送りノートの活用。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と情報提供書や電話等で情報交換を行い関係づくりに努めている。入退院時、入院先のDr・看護・相談員と情報交換を行い本人・家族と治療方針、退院時の受け入れ体制を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・法人医師・職員・かかりつけ医等で情報交換・相談を行いながら方針を共有している。家族会で医師の講話を行い家族の理解を深め看取りについての事前確認書・同意書を活用している。	重度化した場合の対応については、入所時に本人や家族に方針を説明している。年1回の家族会時に見直しも行っている。実際に看取った経験はまだないが全職員で前向きに取り組む看取りにも備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の手順・AEDの取り扱い方法、吸引機の取り扱い方法の研修会・訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で、通報訓練や非常食研修を定期的に行っている。災害時に備え食料や飲料水・毛布等を準備している。又、年2回日中・夜間想定で消防機関、職員で防災訓練、年1回法人内の職員で風水害の訓練を実施。	法人全体で年に2回消防署の立会いの下、防災訓練を実施している。避難訓練には消防団や地域住民にも参加してもらい、災害時に円滑な手助けをもらえるよう協力体制の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の中での一人一人のプライバシーの確保や人生経験の中で培ってきた誇りを大切に、尊重できるように日常的に職員間で話し合い確認し合っている。法人内で研修を行っている。	利用者の尊厳を軽視した対応にならないよう言葉遣いに気を付けている。特にトイレの誘導や入浴時には配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表せる様な声掛け・雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のペースに合わせ、その人のできる事・やりたい事を見つけ居場所作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回散髪の日を設け美容師の方に訪問して頂いている。又、希望者には簡易のヘアカラー剤での白髪染めを職員が行っている。毎日、本人好みの身だしなみに心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや盛り付け、皿洗い等、職員と一緒にしている。季節に合った料理や郷土料理等を取り入れ楽しんで頂いている。月に1回料理教室を開催し、みんなで調理している。	定期的に料理教室を開き、利用者と職員と一緒に季節の料理やおやつを作っている。普段の食事は法人グループの厨房でメインのおかずを作っているが、利用者と一緒に配膳や片付けなどできるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回の体重測定、毎日の水分摂取量の確認を行うことで食事量の調整・水分量や種類の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。一人ひとりの力に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後排泄パターンを把握しトイレへの声掛けを行い最小限のパットのみ使用している。おむつカバーや紙パンツは使用せず布パンツで対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して出来るだけトイレで排泄できるよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し排便確認を行っている。便秘予防として水分量の確保・レクや散歩・生活リハビリを通じて運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように本人のペースに合った入浴を行っている。個別浴を行い、浴槽もリフト付きの機械浴の湯舟にもゆっくり浸かって頂いている。基本的に夏場は週3回冬場は週2回だが希望があれば可能な限り実施している	入浴は利用者の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む利用者には無理強いすることなく言葉かけや対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ちよく安眠出来るように日中の活動を促している。本人のペースに合わせ午睡や休憩をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテに挟んでいつでも確認できるようにしている。副作用が心配な方・他症状等に注意が必要な方は看護職から注意事項の指示を仰ぐ。申し送りノートに記入し周知する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLの状態に合わせ役割をお願いしたり、以前の職業の力を発揮できる場を作っている。又、ご家族の協力で好きなお菓子や果物を召し上がって頂いている。家族が遠方の方は定期的に外出や外食に行き気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常の散歩等は希望に沿って支援している。買い物や外食は家族の協力も得て行っている。育った地域や思い出の場所へドライブに行っている。	家族の協力を得てドライブや外食に出かけたり、職員と一緒に買い物に行くなど出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが外食や近隣への買い物等外出先で支払いを行うときは職員と一緒にやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話は個人情報保護に配慮して取り次いでいる。電話など希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや、玄関等に季節の花を生けたり、季節や行事に合わせた飾りつけを行っている。ソファや本棚等を設置して家庭的で居心地の良い雰囲気・空間づくりに努めている。	玄関入り口やリビングには季節の花が生けてあり、その日の天候や時間を考慮した照明や温度設定をして、ゆったりと気持ちよく過ごせるように配慮している。ソファの配置や畳を敷き座椅子を置くなど居心地よく過ごせる工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し1人で過ごしたりテーブルを囲み少人数で過ごせる場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や植物等一人一人に合った空間づくりを家族と協力して行っている。自宅で使用していた布団や枕を活用している。	本人や家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自走しやすいようにフットサポートを外し、手と足を使って移動できるように工夫している。全員がホーム内を自由に移動できるように安全に配慮した空間づくりに努めている。		